

まぼろしの金沢・七尾火力発電所

北陸電力は、高度経済成長期に発生した公害問題や環境保全に対する関心の高まりを背景に2つの石油火力発電所計画を断念しています。それが、金沢火力発電所と七尾火力発電所です。

金沢火力発電所計画は、1973年（昭和48）の内灘町町長選挙後、新町長から石川県と北陸電力に火力発電所建設に反対する旨の申し入れが行われ、計画を断念しました。

七尾火力発電所計画は、1973年（昭和48）に石川県、七尾市および地元関係者に対して建設を申し入れるとともに各審議会の承認を受け、関係漁業協同組合の同意を得ました。工事準備にとりかかったところで、環境への影響を心配する地元の漁業関係者が訴訟を提起。石川県知事の仲介などにより数度の話し合いが開かれ、北陸電力は地域との共存を基盤とする環境問題への姿勢を説明しましたが、立場の違いは埋まりませんでした。供給力の確保に迫られる北陸電力はやむを得ず、1978年（昭和53）末に埋め立て工事に着手しましたが、地元の漁業関係者による工事阻止行動を受け、工事を中断しました。

その後、1979年（昭和54）に七尾市長が県有埋立地（現在の七尾大田火力発電所立地地点）での建設を提案。1981年（昭和56）に北陸電力は改めて関係先に建設計画を申し入れ、1995年（平成7）に七尾大田火力発電所1号機が運転を開始しました。



七尾大田火力発電所

